



<参加メンバー> 8人 (男性5人、女性3人) 天候：晴れ

<コースタイム> 阪急千里線豊津駅10：15～10：30垂水神社、垂水の瀧～11：20関大南門～千里山遊園地跡 (関大構内)～11：50関大構内レストランでランチ12：30～12：45関大北門～13：15佐井寺のスリバチ地形(棚田)～13：40伊射奈岐神社～13：55佐井寺～14：20佐井寺の清水～15：00千里山住宅地第一噴水～関大前駅  
歩行約4H 距離：約8km

<行動の概要>

千里丘陵の地形は樹枝状浸食谷が多く見られ(上図)、谷地形を利用して水田や溜池が造られ、傾斜地の雑木林は竹林が多く面積を占め筍の産地としても有名であったという。そんな農村地帯は現阪急千里線の開通に伴い千里山駅を中心に住宅地の開発が進み、1970年大阪万博の頃には北大阪急行の開通によってさらに宅地は広がっていく。千里丘陵の山は削られ造成された土地には団地や戸建てが造られていった。現在は大部分の地面がアスファルトやコンクリートに覆われてしまったが、そんな中でも地域住民の活動で鎮守の森や神社、貴重な棚田が守られていることに大いに敬意を払いたい。今回のポイントは①垂水神社、垂水の瀧(丘陵の南端の崖下にある)、②千里山にあった遊園地(1920～1950年)、③佐井寺のスリバチ地形と棚田、④伊射那岐神社、⑤佐井の清水などで、それらを地形図や地形図アプリを使いルートファインディングしながら歩いた。(Gi)



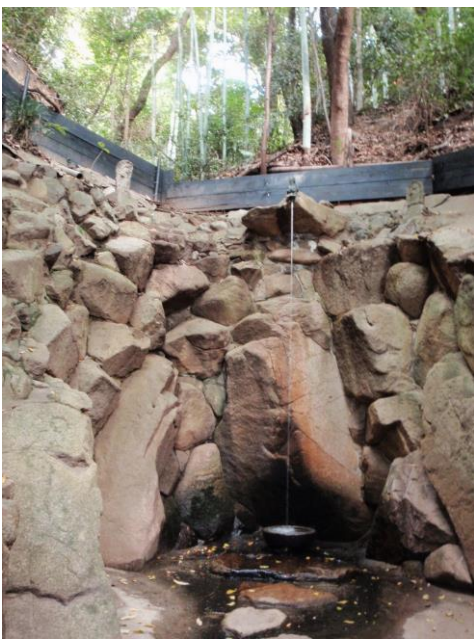
垂水神社入口



参道を行く



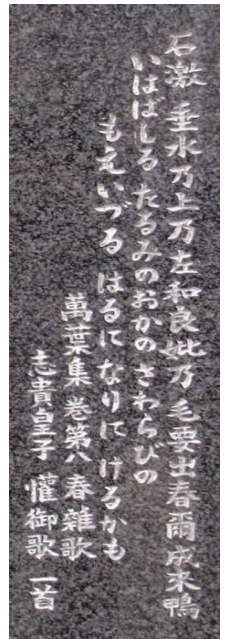
神社拝殿、背後に森が広がる



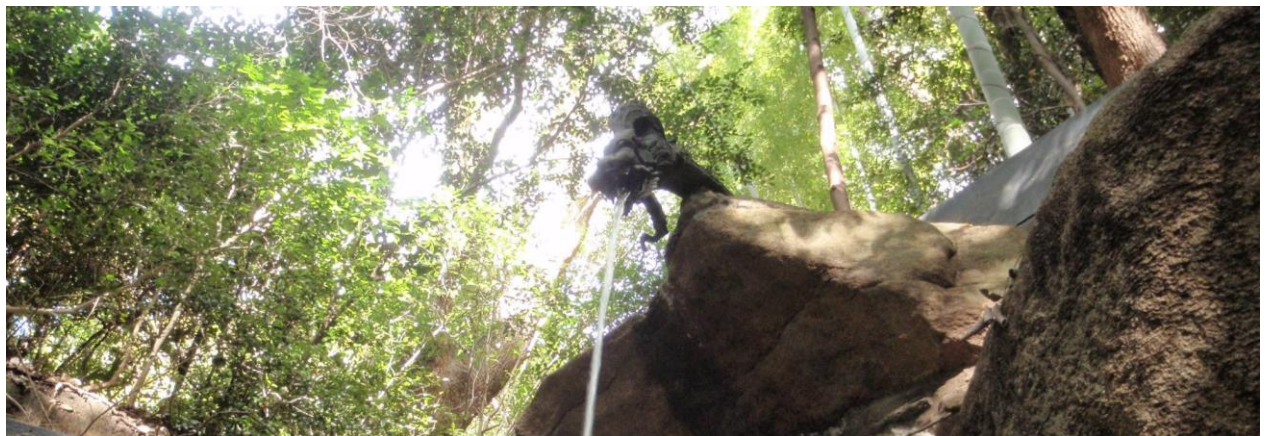
垂水の瀧 (千里丘陵の南端の崖にある)



石碑には万葉集の中の有名な歌が刻まれている



石漱垂水乃上乃左和良地乃毛要出春雨成来鴨  
いははしるたるみのおかのさわらびの  
もえづるはるにけりけるかも  
萬葉集卷第八春雜歌  
志貴皇子 懼御歌一首



瀧の落ち口、龍の口から水が落ちている。歌の「いわはしる垂水の・・・」はこの場所か？  
今は水量は少ないが当時はずっと水量は多くほとばしっていたことと往時を想う。



垂水神社境内、奥には森が広がる



境内から森を抜けると住宅地へ出る



「垂水の子孫たちへ」碑文。開発から鎮守の森を守った人たちの思いや経過、子孫への願いが書かれている。自然保全活動の貴重な一例。



神社から住宅街を経て踏切へ出る。前方の山はもと千里山遊園地



かつて「千里山花壇駅」があった



関大南門から入る。もと遊園地は関大キャンパスに取り込まれた



もと遊園地の山頂へ向かう



キャンパス内の黄葉



キャンパス内レストランでランチ



北門より出て佐井寺へ向かう



佐井寺の棚田。スリパチ地形の上部にある住宅街に取り囲まれ、スリパチの一番低いところにある。狭いが貴重な空間。



棚田周りには歴史がありそうな旧家が点在。銅板吹き葺の蔵もある。



佐井寺の氏神、伊邪那岐神社



伊邪那岐神社本殿



神社に近い佐井寺への石段



佐井寺。境内で休憩



佐井清水水源地。崖下にある。中へ入れなく清水は確認できず



一路ゴールへ向かう



ゴールほ千里山住宅地の第一噴水。住宅地の西地区はこの噴水を中心に放射状に広がっている。



歩いたルート

